

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第18回保育園・学校部会」 会議録

日時 令和2年2月10日 午後5時00分

場所 地域交流センター 第3研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)
中原 敏(筑北中学校長) 赤羽利樹(筑北中学校教頭)
峰田由紀子(筑北中学校教務主任) 福田弘彦(麻績小学校長)
高野恵理(麻績小学校教頭) 鳥海 康(麻績小学校教務主任)
臼井孝夫(麻績保育園長) 宮川裕満(学校組合教育委員)
塚原明水(学校連携支援員) 高野羊子(麻績小PTA会長)
柳澤友則(麻績小前PTA会長) 刈間伸一(麻績小前々PTA会長)

欠席委員 藤原宗功(筑北中PTA会長) 山本一義(筑北中PTA前副会長)
小山芳道(筑北中学校前々PTA会長)

教育委員会事務局 飯森 力(教育長) 臼井太津男(教育次長)
佐藤克哉(主事)

傍聴者 0名

1. 開会

教育次長：定刻となりました。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第18回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは部会長あいさつをお願いいたします。

2. 部会長あいさつ

部会長：改めまして皆さんこんばんは。本当に一日のお仕事お疲れのところ、雪が舞いだしてお寒い中ご参集いただきましてありがとうございます。今日が10日でありますので後ちょうど50日で麻績村立筑北中学校が発足します。思い起こせば平成29年3月29日に筑北村が一

方的に、まさに一方的に学校組合離脱を表明しました。これに対して麻績村は筑北村の議会で可決したことであるので、まったく残念だけれど致し方ないと受けとめて目の前の子どもたちの教育を第一に考えて進めて参りました。いずれの日になるか分かりませんがこの地域の教育は一つにならなければならない。こういったことを視野に入れながら施設分離型の保小中一貫教育に向けて、ここにいる皆様方の英知とチームワークで小規模校の良さを生かした非常に先進的、先見的な取組にご尽力をいただいております。そして着々と成果を上げていただいております。先日の4日間に及ぶ小学校の中学体験入学もその一つです。まさに石あるところに道ありという感じがしました。このような中で先日小学校低学年の授業を参観させていただきましたが、本当に子どもたちそれぞれ成長しているなということと、先生方が一人ひとりの子どもに手が入っているという感じがしましてありがたく、嬉しく感じました。今日も次第に沿って存分にご意見をお聞かせいただければと願っております。今日が本年度この会が最終回となります。私どものこういった世界は来年度も同じ顔触れで会議をするということは保証されていません。従いまして、一期一会このメンバーで会議が出来るのは今日が最後かなという思いで各自本当に率直な意見をお聞かせいただいて、これが来年度以降に繋げていけたらなという思いを抱いております。それではよろしく願いいたします。

3. 協議事項

教育次長：それでは、協議事項に入りたいと思います。協議につきましては、部会長に進行をお願いいたします。

(1) 前回の部会（12/3）の再確認

部会長：それでは、前回の部会（12/3）の再確認ということで事務局から説明をお願いします。

教育次長：それでは、私の方から前回の部会の内容について簡単にご説明いたします(以下前回会議の内容について振り返り)。

部会長：何かご質問ご意見付け足し等ございましたらよろしく願いいたします。よろしいでしょうか。それでは次に移ります。

(2) 前回の部会以降の報告等

部会長：中学校から順番にご発表をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員：よろしくお願いいたします(以下資料に沿って説明)。

部会長：多岐にわたる活動の報告をありがとうございました。それでは続いて小学校からよろしくお願いいたします。

委員：よろしくお願いいたします(以下資料に沿って説明)。

部会長：ありがとうございました。それでは続いて保育園長先生からよろしくお願いいたします。

委員：よろしくお願いいたします。小中学校共に前向きに取り組んでいるというご報告を聞かせていただいたところですが、前回の部会以降ということだと保育園では特筆した一貫の取組はございません。特筆するような活動は特にありませんでしたけれども、基本的に一人一人に寄り添いながら丈夫な体と豊かな心を持った子どもを育てるという保育方針に基づきまして生きる力の基礎を培うといった中で、小学校との連携でもありますキッズサポート会議等を開催しまして気になるお子さんや支援が必要だと思われるお子さんがスムーズに就学できるよう取り組んでおります。また、特に年長ですが体力もついてきまして後2か月ほどですが全員仲良く過ごしている訳ですが、子どもたちがそのまま小学校に上がって過ごすことができるような保育を心掛けている次第であります。

部会長：皆さんからこのことについて意見等ございますでしょうか。

委員：私は連携支援員だったり放課後学習等で中学校に入ったり小学校にも気さくに入れる立場にさせていただいていますが、今まで中学校は敷居が高いと思います。学校の先生が行っても中学校は敷居が高いなと思っていましたが、入ってみると先生方本当に熱心で子どもたちも良く挨拶をしてくれます。何回も行き会っていても必ず挨拶をしてくれます。先生方も例えば12月頃から入試に向けて子どもの願いを聞いて各学校へ何回も出張に行っています。願書の提出とかも非常に丁寧に見てくれていて先生方本当に無事に事故もなく頑張ってくれているなと思います。小学校も水泳の指導とかで私の行ける範囲で学校に顔を出していますが、どの先生方も私が先生をや

っていた時よりも丁寧に面倒をみています。丁寧すぎるのではと思うぐらい先生方頑張ってくれています。来年度も子どもの数が少し増えて金管バンドの方向性も増えて、是非中学校に行っても金管バンドをやるような子どもに育てられればいいかなと思います。人権教育の関係で種を植えますが、小学生でも高校生を教えることができますと思います。酸素を出すのは植物で二酸化炭素を吸ってくれるんだよとか、中学校で教える内容かもしれないけれど育てていく中で植物に感謝する心とか、花に癒される心、友達に癒される心といった部分も来年はやってくださると思うので小学校に期待したいと思いますし、応援できるところは応援していきたいと思います。

部会長：他にいかがですか。

委員：定例教育委員会でも言わせていただいたんですが、中学校の体験入学ですが当初自分の中で4日間は長すぎて逆に中一ギャップが大きくなるのではと心配していたんですが、そんなこともなく楽しく目標を持ってできたということで意味のある4日間だなと感心しました。

部会長：他にいかがですか。

委員：中学校の体験入学について当初はみんなも楽しかったとか、先生も先輩も優しかったという話を聞いていて、中には怖かったというお子さんもいたようですが非常に4日間充実していたなと思って受け止めております。中には部活は目標の部活があって入りたいと言っていた子が、今部活に入ることを戸惑っているようなことを言っているそうです。それは中学に入る実感を持ち始めたんだと思います。甘いことを言っていられないという思いが本人にあるのではないかなと思って、逆に入学してからそういう思いになるより今からそういう思いを持っていると親もフォローしてあげやすいなと思って良かったですと思います。先日は中学の方で学習相談とか前もってやっていただいて校長先生直々にお話をしてもらったというところがすごい救いで親も一緒に考えていけるというか相談していけるかなと安心しています。そういった感じで子どもが冷静に見つめはじめています。

委員：去年6年生の担任でこども議会の場でこれから小中一貫で一緒に取り組んでいかなければいけないけれど場所が離れているので、行くだけで時間が掛かってしまいやりづらいのでバス等を出していただ

けないかと提案をさせていただきました。今年の体験入学では4日間バスを手配していただいてバスに乗って行き帰りが出来たということで、去年提案したところがやっていただいてありがたいなと思っております。その中でビブリオバトルについても昨年度からやっていて去年は頑張っていたなという感じでこれは定着するなと思っていたんですが、今年も体験入学4日間の中にプランを組み入れていただいて嬉しく思っています。中学の資料を見させていただきますと百人一首大会をやっているということですが、小学校でもそれぞれの学年で百人一首を少しずつ取り組んでいるところでもありますので来年から小中とあわせて百人一首大会ということも出来るのかなという期待もあります。また感想ですが模擬裁判といった授業があつて個人的にこういった授業があるということは良いなと思って来年度以降もこのような授業が計画出来れば良いなと思いました。

部会長:その他によろしいでしょうか。私から付け加えをさせていただきますが、麻績小学校の学力検査の後の報告の中で皆に対して発表力が非常に弱いというデータが出てきたことがあります。小規模校だと皆の前で発表するのはガタガタしてしまつてダメだねという意見が私の耳に残っていたんですが、本当に今回それなりの指導がされているせいか子どもたち堂々たるものでした。どこへ出しても恥ずかしくない本当によくご指導していただいたなと授業参観で感じました。その他によろしいでしょうか。それでは次に学力向上リーフレットについてどうするか意見がありますか。毎年年度が替わるたびに少しずつ見直しをしています。今のところはよろしいでしょうか。

委員:見直しをして年度初めに出せればと思っております。

部会長:それでは小中の関係する皆さんでご検討いただいて直すところがあったら新たに印刷をして配るという段階でお願いしたいと思います。それではもう一点今までの取組の中で事務局よりお願いします。

教育次長:私の方で一点朝の出来事という部分でお話をさせていただきます。私が通う中で7時半の電車で降りてきたら中学の西澤先生と渡邊先生が今日は一番冷えたと思います。いらっしゃいまして、前期選抜ということで生徒の見送りをしていました。もちろん他の高校生の保護者は子どもを下ろせば行ってしまふんですが、西澤先生と渡邊先生はその時間は長野方面と松本方面がすれ違って行くんですがその電車が行ききるまで心配そうに見て手を振っている姿を見て、本

当に子どもたちはここまで見守られている、心配されている、勇気づけられているということを感じて2人の表情を見ていると保護者以上に心配そうで、でも頑張っていて欲しいという表情でした。毎年前期選抜と後期選抜の時は先生方が駅まで見送ってくれて激励してくれるんですが、そういった部分は小規模校ならではの良さなのかなとしみじみと思いました。それでは私の方からGIGAスクール構想についてご説明をさせていただきます(以下資料に沿って説明)。

部会長: このことについてご質問やご意見ございますか。このことにつきましては大事な方向だと私も認識しております。新聞記事や教育関係の雑誌等でもかなり大きく報じられております。次長からあった説明の通り文科省の政策では無いんです。内閣府から経産省が口を出し始めてかなり強烈に進みます。教育長や次長はかなり前向きに捉えて麻績村としてはパソコンの子どもへの普及率は県下でも高い方ですのでかなり有効に進んでいくのではないかと考えております。皆さんからはよろしいでしょうか。それでは次に進みます。

(3) 一貫教育に向けた事業等について

部会長: それではこのことについてご説明をお願いします。

委員: よろしくをお願いします(以下資料に沿って説明)。

部会長: 皆さんからご意見等ありましたらお願いします。私から一点質問ですが、CS運営委員会のCSとは何の略ですか。

委員: コミュニティスクールです。

部会長: 念のため確認をさせていただきました。その他にありますか。

委員: こういった資料が欲しいと思っていました。何が保小中一貫で出来るかなと考えるときにそれぞれの情報とか実績があるのは分かっているんですが、こういった一枚もので出てこないと話が出来ないということがあったのでとてもありがたいなと思います。例えばこれから小中が一緒に進んでいきますが、どこかの会議で先生方のコミュニケーションはどうかという話がありましたがそこがこれから大事なのではないかと思います。どうしても職員室が同じ場所ではないので今日はこんなことがあったとか、この子はこんな状態で来年はどうかなといったことが小6から中一といった部分にあたると思いますが、そういう情報交換が出来るような機会というか場が

あると良いなと思っています。出来ればもう少し小学校の先生とざっくばらんに話をしてみたいというところがあるので来年はこの資料を参考に進めたいと思います。

部会長：その他にございますか。

委員：この一覧表を作っていただいたということはこの会議に出ている人たちは今までの全部承知してきた中で分かりやすく、表にしたことでおさらいが出来るという意味でとてもいい資料だと思います。私が思うのはここに来ている人たちだけではなくて、一児童生徒の保護者なり村民の皆さんも一貫教育とはいったい何なのか興味を持っている人はいると思います。これからスタートするという事になった時に意識する目というのが上がると思います。その時にどういうことを進めていく、どういうことを考えているということはどこかで見せていくことが大事な事だと思います。見せ方は色々な方法があると思いますが、ここまで資料が整っているのです。例えば小学校は文化祭が無いけれど中学校の文化祭は生徒の保護者の他に住民の人たちも見に来るいい機会だと思いますので、そういった場所の端々でこういうことを打ち出して置いて目に触れる機会というのは増やした方が良くないかなと思います。そういう部分で少しずつ浸透していく、改めてこうやって一つの項目に関して連携や関連しているものが書き出されてみるとその繋がりがより見えてくると思います。こうやって表に出来たことが一番良いことだと思うので、このまま出すかもう少し優しいものにして出すか何かの機会を増やすことが出来たらいいと思います。

部会長：その他にございますか。

委員：ここまで資料をまとめていただいて、とても分かりやすくありがたいです。基本方針の中でインクルーシブ教育の充実ということで活動として副学籍の子達の交流というのが今在籍の中学校でやっています。本当に中学校の先生たちから声をかけていただいたり、毎月お便りをいただいたりとお交流をしてくださっています。付け加えて欲しいことが特別支援教育の中に副学籍の交流ということで付け加えていただければありがたいと思います。思いとしては中学で副学籍で地元との交流を盛んにやっていただいて感謝でいっぱいなんです。今後そういったお子さんが出てくる可能性があります。先日県の教育次長と特別支援課長のお話を聞く機会がありまして、令

和元年から特別支援の改革に力を入れてくださってしましてインクルーシブ教育についてはもっと力を入れていきたいということをお二人から聞いていますので、これから手を付けていく可能性があるのかなと期待しています。モデル校とかになる場合があると思いますが、麻績村は先進的にやっけてくださっているのとお声がかかるかなと期待をしています。これからも絶やさずにお願ひしたいと思ひます。

部会長：その他にございますか。

委員：これだけまとめていただいてありがとうございます。色々な連携をしていただけると良ひかなと思ひます。私も今年で交代になりますので子どもについては分からなくなってしまうところもあるんですが出来るだけ協力できればと思ひます。

部会長：その他にございますか。よろしいでしょうか。それでは私から個人的な願ひですが、小中学校の先生や保育園長先生も来年度の計画を作っているかと思ひますがその時に中学で言えば保育園や小学校との関連を見て来年度計画に入れられたら係として工夫してくれないかというご指導を校長先生、教頭先生、園長先生からしていただけたらと思ひます。その為にはこのプリントで関係の所をコピーしていただいても良ひですし持ち回りで回していただいても良ひですし、そんな感じでここに書かれていることを基に先生方お一人お一人が保小中の関連を意識した来年度の係計画が出てくるとありがたいです。全てに入らなくても良ひけれど何かこういったものを意識して係の計画が出てくると良ひなと思ひます。それではよろしいでしょうか。次に進みます。

(4) 保護者からの意見・要望等について

部会長：それでは保護者からの意見要望ということで願ひいたします。

委員：前回の部会でお話しましたPTAを統一した方が良ひということですが今は進めているという段階ではなくて、次の役員が決まっているのでその方達と相談しながら新年度になっても話を出していかうと思ひております。

委員：付け加えをさせていただきます。麻績の小学校のPTAと中学校のPTAを今まで別々ですけれども同じ役で出ていかなければいけな

い所を一つの簡単な形には出来ないだろうかという希望からの検討の案が示されたと思います。確かに急な話で理解が得られないものが多かったので本当は今回までの間に保護者の中で分散会を開いて保護者たち同士でもどんな内容で進めようとしているのか、方向性の確認をしておこうという部分で日程を検討しました。それが忙しい時期がそれぞれ皆さんありましてどうしても上手くいかず、1月のどこかでやりたいという話は出たんですがその話は出来ませんでした。それまでに今の中のPTAというのを外部のPTAということまで考えたときに、果たして麻績小学校のPTAの保護者数もしくは筑北中学校のPTAの保護者数だけで上手くやっていけるのか、例えば郡のPTAで今年回ってきている常任委員とか学校行事の当番とかが近々回ってくるという話を聞いた時に大丈夫だろうかというのが、私たちは当事者ではないですがこれからの生徒数とか保護者数を見たときにその時にいきなりスタートされて大丈夫なのか、もっと前から検討した方が良いのかなというところからその話が出たように私は思っています。残念なことにその分散会が開けなかったので私たちのような前PTA会長といった保護者の代表という形で出てきている私たち自身もしっかり把握できていないというところで、本当であればどこかで私たちもどんな状況に置かれているのかという事だけでも把握しておいた方が良いのかなということを感じています。出来ればそんな話を役員だと1年交代になってしまうので、この学校部会には私のように前々PTA会長みたいな形で集まってくるので、今まで1年しかいらなかった役員と年を超えて話が出る、一部学校のPTAの役員としてはOBの形になるかもしれませんが現PTAの役員の皆さんの後押しをするぐらいは可能なのではないかと感じています。そういう部分でこの学校部会を上手く使いながらPTAとしての方向というものもこれから話をしていければ良いなということを考えているところですが、そんなことをこの部会の中で話を出していければ良いなと思ひましてまずは現状把握ということでこれから先にどういったことが起きそうなのかということまで皆さんと一緒に話題を共有できればいいなと思っています。

部会長: その他にいかがでしょうか。

委員: 正直役員を離れてしまうと話が伝わってこないです。私がやってい

る時もそういった話が少し出ていましたがそこから先どうなっているのか分からなくて、正直話が伝わってこないというかそういった場が無いので情報的な部分を広げてもらえればという部分もあります。ここに出てきているからそういった話が分かっているので出来るだけ協力はしたいと思いますので是非話を広げていただけたらと思います。本当に役を離れたら情報が入らないということになっていますので、もう少し分かりやすく情報を出していただけたらと思います。

部会長: その他にいかがでしょうか。

委員: 本当は今日この場で調べたことに関して表に出したりしたかったんですが、筑北小学校と坂井小学校が統合しますのでこの当番の順番が減らしたとかそういった組織改革をしてくださっています。その中で私が去年評議員でしたので本当は筑北小学校の部分を考えて動いてくださっていたのでどうかと思ったら、減る分だけ麻績小に充てられそうになったのでそれだけは勘弁してくださいということで止めて、もう一回考えてくださいということで提案できたんですが他の小規模校からも声が上がりまして、小規模校に対しては配慮していきたいということで組んで編成してくれています。とてもありがたくて今後5年度までは役員が決まっているんですが、他の学校もそういう所でとても困っているという状況が分かっているので調べて皆さんに分かるように提示していきたいと思います。令和5年には今91人いる麻績小学校が80人ぐらい、中学は59人の生徒が30人台になります。あと3年後になるので考えていかないと生徒自体がこの人数になってしまうと保護者はどこまで受け入れていけるか私たちは取っても心配です。PTAも今から本当に動いていかないといけないと思っています。人数の代わり具合も皆さんに見て頂きたいので資料を次回までにまとめて皆さんにお示ししたいと思います。もう1点お願いになりますが、新しく入ってくる方は組織の活動が全く分からない状況で入ってきます。私は2回目の役員なのでやっと今分かってきて発言もしておりますが、初めて三役だとかPTAに関わる人は入ってすぐ意見を言うのはとんでもないことで分からないまま入ってきます。人数が少ないとやってないからあなたやってくださいということで来る方もいます。ここに出ている方は慣れている皆さんでOBになりますがぜひ

意見を言っていただけて助けていただきたいと思います。P T A 役員の O B として活動していかなければいけないとっておりますので組織化が出来ればと個人的に思います。卒業すれば関わらないということではなくて今までの経験があるからこそその発展的な意見を出していただけるとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

部会長：その他にいかがでしょうか。それでは次に進みます。

(5) その他

部会長：全体を通して何かありましたらお願いいたします。それでは一人ずつ順番に一言ずつお願いします。

委員：今までやってきた中で学力や色々な生活の中での連携ということに対しまして中々保育園も足並みをそろえることが難しい状況もありますけれども通して言えるのは生きる力をつけるという中の基礎的な部分では保育園の方でも責任を担わざるを得ないと思いますので、そこら辺を踏まえてこれからも一緒に歩いていけたらと思います。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：村民の皆さんにどう伝えていったらいいか考えています。一つは広報で一所懸命流してくれているのは良いなと思いますし、最近公民館でチラシをたくさん入れてくれているのも良いと思います。色々な所で会合等がありますが何をやっているのかが分からない人が多いのが残念だと思います。来年度になればもっと工夫しやすくなると思います。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：私も P T A 役員をやるという時に別の会の役員も引き受けていて嫁に任せてしまっていたんですが、中学になってもそういった状況だったので P T A については嫁に任せっきりだったので良く分からないんですが、郡 P とかそういった大変なことをやる時はこれから皆で協力してやっていくという形で、児童や生徒の親だから任せきりということでは無くて先輩方とかいるので皆でやれば良いのでは無いかと思います。先生方にはこれまで貴重な時間を割いて意見を出していただいたりご苦労していただきありがとうございました。部会も 18 回と煮詰めてやってきていますので後は施設分離型の小中

一貫校としてスムーズにスタートして行って欲しいなという願いです。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：P T A役員をやっている時は郡Pとかかなり負担が大きくて、会議も月に1回とか回数が多くてかなり大変だった記憶がありますので、そういう所を上手く協力というか改善できれば負担はだいぶ減るのかなと思います。正直仕事柄もありますがかかなり負担でした。役員も仕事の都合とかもありますので改革していただければいいかなと思います。苦勞した人間が協力できれば少し分かるかなと思いますのでこれからも協力できればと思います。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：学校教育に関しては先生方をお願いするしかないですが、これからスタートしてみて今思っている以上に問題点が見えてくると思えます。一つひとつで良いと思えますので良いものにしていてもらえればと思います。先ほど話が出ましたが、中々知られていない部分があるとか実際問題自分が役員を終えた後学校の情報が出てこないということは当然だと思います。その部分についても現状の学校生活が分かるということは現在のP T Aの人たちも分からないですし、その人たちが思っている問題点やこれから考えられる問題点なり、一緒に考える相手として私たちO B達じゃないかなと思います。そういう部分で私たちが少しでも一緒に考えることで負担を軽くすることは出来ないかもしれませんが、一緒に考えて答えを探そうというところまでは協力出来るのではないかと思いますので私たちもこれから役目が必要になってくると思えますので、そういう部分で部会を盛り上げていきたいと私自身思っていますのでよろしく願いいたします。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：先ほど色々と言わせていただきました。また皆さんに資料を提供できればと思います。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：先ほど発表させていただきありがとうございました。聞いていて勉強になることが多いなと思っています。ありがとうございます。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：1年間ありがとうございました。4日間の中学校体験学習が教頭先

生方が連絡を取ってくださって来年度の年間計画にも入ってきていて次の6年生は当たり前になっていく、去年の様子を見て色々思うことがある方もいるかもしれませんが私が思ったのは今年6年生の子たちにこういうことをやってみたいんだけどと話をした時に麻績の子たちは素直なのでやってみようという反応でした。嫌だとか心配だとかということもあったかもしれませんがすんなりいってびっくりしました。本日塚原委員が素晴らしい資料を作ってくださいと見ていくと、ここにはこういう可能性があるとかここでもこんなことが出来そうかなということがあると思います。施設分離型ということは所謂一貫校と同じには出来ないということでは無くても何をやっていけるかということとは子ども達の必然性というか子ども達の意識に沿っていかないと当たり前にはなっていない、少しずつでもやっていくと子どもたちにとって当たり前になって、今中学校の先生型方が小学校に来てお力を貸してくださるとかそういうことが当たり前になりつつあると思います。無理なくやっていると長続きしないですし、当たり前にならないと思いますのでそういったことが大事な所かなと思いました。ありがとうございました。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：一年間色々な角度や視点から考えるきっかけをいただきました。ありがとうございました。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：施設分離型の保小中一貫教育は重点となる取り組みがありますので、保育園、小学校、中学校ともにその重点を着実に進めていくことが来年度大事なことになるかと思っておりますので取り組んでいきたいと思っております。常に12年間の育ちを意識して重点に取り組んでいきたいと思っております。施設分離型の保小中一貫教育を麻績村として進めていくことで子ども達にとっては麻績村で育って良かった。保護者としては麻績村で育てて良かったと思ってもらえる教育を進めていければと思います。

部会長：ありがとうございます。続いてお願いします。

委員：いよいよ4月には筑北中学校が村立の中学校になります。これまでいろいろ検討やご指導いただきありがとうございました。中学校としてはこの4月から子どもたちにとって大きな混乱や動揺なくこれまで通り筑北中学校生として誇りをもって中学校に通ってもらっ

て、中学で勉強してもらえることを一番に願って進んでいきたいと思ひます。保小中一貫の取組もたくさんありますが一つずつ着実に進めていきながら、先日中学校体験入学をさせていただいた時に6年生の授業を中学校の職員が少しずつさせていだいたんですが、中学校の職員は対話の学びをする交流型学習をやるわけですが、6年生は戸惑うことなく普通に授業が受けられていました。いよいよ4月からですがこれまで既に取り組んできていただいているように、学校は授業が8割から9割の時間を占めていますので授業で保小中一貫がスムーズに進んで、それが子どもにとって良いことであると明るい見通しを中学校の体験入学で見させていただいて4月を迎えられることが大変ありがたいなと思ひます。4月以降もよろしくお願ひいたします。

部会長: ありがとうございます。続いてお願ひします。

教育次長: 今までのお話の中で伝えることの大切さというお話がありましたが、私は伝えるということの難しさを実感しています。館報でも記事を書いたんですが結果的に分かりにくかったり、自分は分かっているだけだけど全く分かっていない人に伝えるという部分をどのようにしていくかが日々研鑽かなと思ひます。

部会長: ありがとうございます。それでは私の方からお願ひします。小規模校だからということは問題ないんですが、6人しかいないクラスを私はずっと気にしています。今は先日授業を見せていただいても本当に良い授業をしています。まさに5人だからこそ出来る授業をしています。担任の先生はその子のノリの付け方まで見てくれます。そういう所まで見て指導してくれているんです。その点は非常に良いんですが、私が心配しているのは低学年の内は問題ないんですが男の子が一人っきりで思春期を迎えてくる小学校高学年や中学に向かっている、学校統合でもない限り間違いなくそのまま進んでいきます。その時にあわててどうしようでは困りますから、今から6人のクラスしかも男の子は1人しかいない、その男の子をどう健全に育てていくようにしていくか皆さん共通の問題意識を持っていただきたいと常々思っております。5人程度のクラスが珍しいと思われるといけませんので全県下のデータを調べましたがお手元に配布の資料通りで決して麻績村だけの問題ではないということをお認識していただければと思ひます。それぞれの学校でどういう風

にやっているか例えば麻績村教育長の名前で書く学校にアンケート調査することも訳なく出来ると思いますが、相手にもご迷惑でしょうし、そういうことかとなってしまいますので、私の希望ですが校長先生や教頭先生はそういった学校も知っていらっしゃると思いますし、若い先生は若い先生の仲間がその学校にいらっしゃるはずで、公開していただいて構いませんので特に小学校では、ゆくゆくは中学校でも個人的に連絡を取っていただいてどのような工夫をしているかということも吸収していただければと思って資料をお配りしました。日頃の思いということでも述べさせていただきました。最後に副部長の方でまとめをお願いします。

副部長：本当に委員の皆様、先生方この1年間お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日いただいた一貫教育に向けた事業の資料も本当によくまとまっていると思いますし、村民の方や保護者の方に小中一貫とは何かということに十分応えられる資料だと思えます。いかにこれを多くの人目に入れるような形で伝えるかは伝えることの難しさがあると思いますが、多くの人目に入るようにしていただければと思います。大人はなかなか1年間でそんなに成長しているという感覚を持っていないかもしれませんが、子ども達は本当に1年ごと成長するし、中学の3年間でも成長していますのでそういう中で先生方がいろいろ今まで出たような取り組みを引き続きお願いしたいと思えます。人数が少なくなって小学校の顔なじみの1学年で2学年上の人がいる中学校に入っていく訳ではありますが、やはり学校が変われば新たに緊張と新たな喜びや不安があると思えますので中学の方でも色々と難しいと思えますけれども小規模校であるがために校長先生と教頭先生も生徒の顔と名前が一致しているという所を強みにしていただいて、先生だけでなく村全体で子ども達を育てていければと思います。最近読んだコラムにおもしろいフレーズがありましたので紹介したいと思います。『成功は人の表面を飾り、失敗は内面を豊かにする。失敗には成功に劣らぬ報酬がある。』というフレーズがあって気になっていました。今までのお話にもありましたが、出来たことの発表、出来なかったことへの振り返りも大切ということがありましたがその話を聞いてこのフレーズを思い出しました。人間成功ばかりではありません。失敗や上手くいかなかったことを良い教材にしながら成長して

いくものだと思いますので繰り返しのようになりますが、先生だけにお任せするのではなく社会全体、村全体として子ども達を見守っていったらと思います。

部会長:最後に皆さんから言い残した点等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次回の開催日程についてですが、令和2年4月以降になりますのでここでは決定しません。それでは閉会の前に教育長よりご指導をお願いいたします。

教育長:大変ご苦勞様でございます。最初に皆さん方本当に先を見て検討していただき、目に見えるような成果が出てきていること本当に感謝でございます。ありがとうございます。見ていると学校間や学校の先生方の雰囲気が変わってきているなということを感じています。先生方が子どものことをしっかり考えていただいて、別の言い方をすると子どもが少ない中で一人ひとりがよく見えるという部分があるかと思いますが変わってきているなと感じております。本当にありがたいと思います。これからまだまだ課題もあろうかと思えます。特に大きなものが少子化の問題です。これに関しては行政の方でも住宅を建てながら子どもがいる方が優先ということで出来るだけ子どもの数を減らさず増やすような方策を進めております。こちらの方も少しずつですが成果が出てきております。天王住宅、本町住宅等あわせまして今までだったら減っているところだと思いますが相当数増えている部分があるかと思えます。保育園も15人から20人程度通ってきております。それを見越すと先ほど部会長がおっしゃった一番少ないクラスが目立ってしまうのかなと思います。来年度は1人増えるということなので少しずつ増えてくるかなという気もしています。少しずつではありますがそういう所もやっていきたいと思えます。今後とも是非ご協力をお願いいたします。PTAの関係について話がありましたが、学校行事の関係も色々支障があろうかと思えますし役員になった方の仕事が一気に増えてしまってもいけませんので時間をかけてしっかり検討していただければと思います。感想になってしまいましたがよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

5. 閉会

教育次長：長時間にわたりお疲れ様でございました。以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第18回の保育園・学校部会を閉会いたします。1年間ありがとうございました。

(閉会 18:55)